

I 職員 評価結果を受けての対策等

1 教職員としての資質の向上

(1) 1学期末の結果を受けた改善策

「学校組織の一員として、協力し合って組織的に学校の課題に対応できたか。」の項目で「あまり当てはまらない」回答を「0」にする。(チームで対応、組織の見直し)

| 番号 | 項目 | 調査日 | よく当てはまる | やや当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|----|------------------------------------|-----|---------|---------|------------|-----------|
| 4 | 学校組織の一員として、協力し合って組織的に学校の課題に対応できたか。 | 7月 | 1 | 8 | 2 | 0 |
| | | 12月 | 3 | 6 | 0 | 0 |
| | | 3月 | 4 | 6 | 0 | 0 |

視点3 組織体としての教職員同士のつながり(「教師」と「教師」)

| 番号 | 項目 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 平均 |
|----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑧ | 学校は組織体:話し合って決めた指導内容は、みんなで意識をそろえて実践していますか。子たちへの指導は、担任一人ではなく全職員で一致した指導を行っていますか。 | 3.3 | 3.0 | 3.3 | 3.2 | 3.3 | 3.1 | 3.5 | 3.2 | 3.5 | 3.3 |
| ⑨ | 風通しのよい職場:授業の成功や失敗、学級づくりの悩み等を職員室で語り合っているか。(学園のヒントは、隣のクラスの実践から見付かる。) | 3.4 | 3.1 | 3.0 | 3.2 | 3.3 | 3.3 | 3.5 | 3.3 | 3.6 | 3.3 |

(2) 2学期末の結果を受けた改善策(共通実践事項の徹底)

① 4つの共通実践事項

② 愛の0123運動+1(ワン)

→ 0 学校生活の中で、子どものよさ・成長について日常的に「褒め、認める」「保護者へ伝える」

→ 1 欠席1日目(保護者への連絡) → 2 欠席2日目(家庭訪問)

→ 3 組織的な対応 → +1(関係機関との連携)

③ 大畠つ子ABC運動

A(あたりまえのことを)、B(びっくりするほど)、C(ちゃんとやる)

2 自ら学ぶ力

結果を受けた改善策

① 授業づくりのための4つの共通実践事項の徹底

② 校内研修を核とした授業改善の評価・分析

③ SEO週間など、職員が互いに学び合う体制づくりの設定と風土づくり

④ 個性に応じた学習課題の準備及び保護者と協働した家庭学習の推進

※ 児童の意識と職員の意識の温度差調査(質問紙等結果の活用)

Ⅱ 保護者 評価結果を受けての対策等

1 教職員としての資質の向上

全ての項目で「全く当てはまらない」という回答を半減するため、授業参観や学校行事等の機会を大切にするとともにHP等で啓発を図る。 全く当てはまらない回答↓

| | 質問項目 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|---|----------------------------------|-----|-----|-----|
| 1 | 学校は、子どもたち一人一人を大切にした指導をしている。 | 3 | 1 | 0 |
| 2 | 学校は、子どもたち一人一人に対してきめ細かい対応をしている。 | 5 | 1 | 1 |
| 3 | 学校は、不祥事につながらない言動に努めている。 | 3 | 3 | 1 |
| 4 | 学校は、子どもの問題等に対して、組織的に(複数で)対応している。 | 4 | 2 | 1 |
| 5 | 学校は、保護者や地域と連携を深めるように努力している。 | 6 | 4 | 1 |

2 自ら学ぶ力

「授業参観の時に、進んで発表したり話し合ったりしている」場面を確実に届けるために、日頃から「子どもと教師の出番を7:3」にする授業実践を積み重ねる。

| 人吉市立大畠小学校 4つの共通実践事項 | 自己評価 | | | | |
|---------------------|------|-----|-----|-----|-----|
| | 5月 | 7月 | 9月 | 11月 | 1月 |
| 1 子どもと教師の出番は7:3 | 2.1 | 2.4 | 2.8 | 2.9 | 3.0 |

↓ 保護者評価の変遷

| 7 我が子は、授業参観の時、進んで発表したり、話し合ったりしている。 | 2.8 | 2.6 | 3.0 | 1学期 | 2.8 | 2.8 | ▲ 上昇 |
|------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| | | | | 2学期 | 2.6 | | |
| | | | | 3学期 | 3.0 | | |

3 関わり合う力

4／5項目で「全く当てはまらない」と回答した保護者が若干名いる。年度末には「0」になるように日々の教育実践に取り組むとともに、保護者への協力を依頼する。

全く当てはまらない回答↓

| | 質問項目 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|--|------|-----|-----|-----|
| 11 我が子は、基本的生活習慣が身についている。 | 0 | 1 | 1 | |
| 12 我が子は、人を差別したり悪口を言ったりすることがない。 | 1 | 2 | 0 | |
| 13 我が子は、学校や社会のきまりを守ることができる。 | 1 | 2 | 2 | |
| 14 我が子は、学校に行くことを楽しみにしている。 | 2 | 4 | 3 | |
| 15 我が子は、大畠のことを知り、大切にしていくこうとする態度が育っている。 | 1 | 2 | 4 | |

4 やりぬく力

結果を受けた改善策

「我が子は、根気強くあきらめない心が育っていない。」という回答が2名いた。合い言葉の「う」(動く!)を更に意識化・日常化する。 全く当てはまらない回答↓

| | 質問項目 | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|----------------------------|------|-----|-----|-----|
| 20 我が子は、根気強くあきらめない心が育っている。 | 2 | 2 | 2 | |

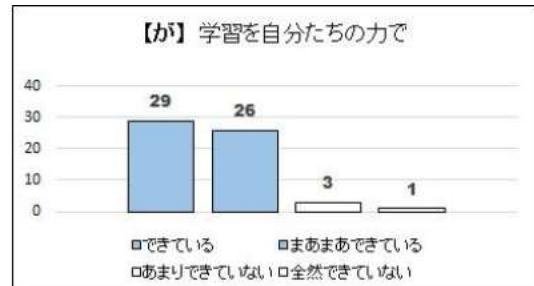
III 児童 評価結果を受けての対策等

1 教職員としての資質の向上

各項目に「全くあてはまらない。」と回答している児童が数名居る。**全ての児童にとって心の居場所のある学級づくりを行う。(関係アンケートで進捗を把握する。)**

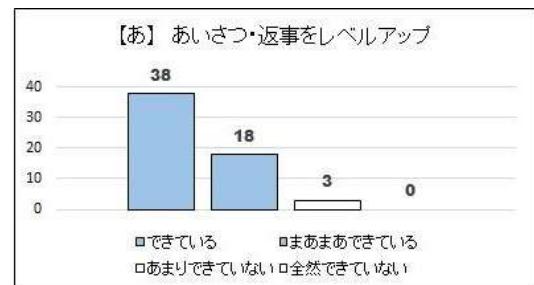
2 自ら学ぶ力

個別最適化で協働的な学びを構築し、更に児童の「自ら学んでいる意識の向上」を目指す。そのため**校内研修の充実と「授業を見合う週間」(S E O)での学びを深化する。**



3 関わり合う力

生きる上での基本となる進んであいさつや返事ができる児童を育てたい。そのため、「進んであいさつや返事」ができる習慣づくりや「ありがとう」を1日何回も言える児童を育てる。



4 やりぬく力

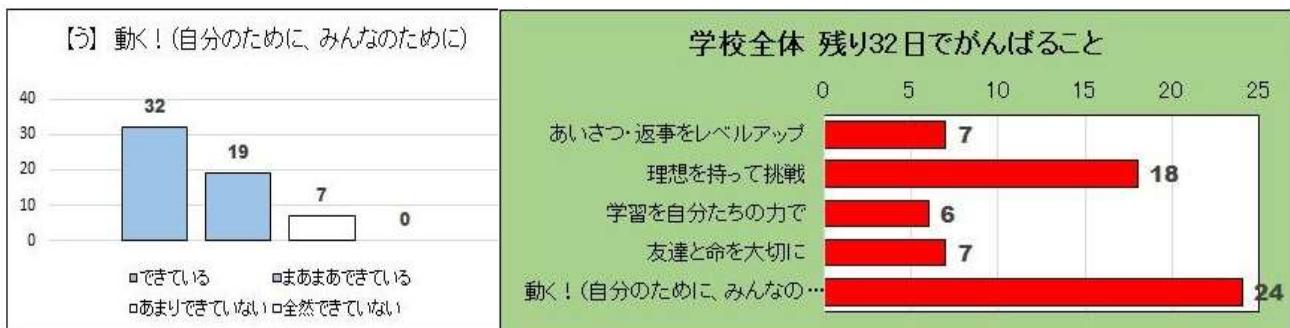
今後は、「あなたは、何事にも根気強く取り組み、簡単にあきらめていませんか。」を向上させるための**具体的な手立てを部会で企画し、学校総体で取り組む。**また、「**全く当てはまらない**」と回答する児童を「0」にする。(焦点化した指導も必要)

| 番号 | 項目 | 調査日 | よく当てはまる | やや当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|----|----------------------------------|-----|---------|---------|------------|-----------|
| 1 | あなたは、何事にも根気強く取り組み、簡単にあきらめていませんか。 | 7月 | 39 | 18 | 6 | 1 |
| | | 12月 | 39 | 13 | 2 | 1 |
| | | 3月 | 34 | 12 | 5 | 0 |

児童の意識（2月全校集会後に調査を実施）

「動く」自己評価

3学期にがんばること



※ 児童の「動くこと」に係る意識は高まっている。